

東京市

宇田川新太郎様

軍事郵便



東京

宇田川新太郎

お前

お前様 御返り多し お返しの事と思つた

小生も相度多し 元来でする事急ぎ物を送つた

毛織 上ツ下 一着

茶色ノキヨツキ

出来たらアゲモノ

石巾類多し 一着

小色日傘中しこれふいやうに包装して送つた

一打三郎

お前様

東京都

宇田川新右衛門様

軍事郵便

検閲済

和

減

佐世保局第付少五七三〇号
宇田川新右衛門

相好

船からく渡り河原の舟にありまゝたか

舟の後流に流す舟お乗りもななく無々

即健康よりお養育のそのと吉原の舟

舟りまゝ私もお落し舟お乗りし舟りまゝ

仇敵米鬼撃平殺に全力を注ぎ舟りまゝ

先般は思ひも依りぬ舟りお乗りし舟りまゝ

か有難く相好舟りまゝを請ふ申す舟り

舟りまゝ

舟りまゝ舟りまゝ舟りまゝ舟りまゝ

舟りまゝ舟りまゝ舟りまゝ舟りまゝ

舟りまゝ舟りまゝ舟りまゝ舟りまゝ

舟りまゝ舟りまゝ舟りまゝ舟りまゝ

舟りまゝ舟りまゝ舟りまゝ舟りまゝ

舟りまゝ舟りまゝ舟りまゝ舟りまゝ

舟りまゝ

舟りまゝ

舟りまゝ

舟りまゝ舟りまゝ舟りまゝ

東京市

宇田川新太郎様

半事郵便



軍艦武藏

宇田川新太郎

前略

大妻の中無沙汰致ししより一たび

中雨親ほど先づ一統お妻りもなご

急々の中催縁までお妻りへの趣き請ふ

同慶のまゝに存じしるす 私も

お蔭を蒙り於妻もぞく先づ累で中在事公よ

道進致ししはかりまゝなごら何卒し心配なご

家事に中励みいさしなごあぐや 中致致し

なご

内地に終りなご 下わ日毎に好きに書きたる

ふり種々お忙が
くふまゝの
さし終致し
しやうや

ふららはは古割海の強い日老の
ゆきとに兵黒の
なまを働いて丹り
まあつので内地の
赤の色彩
ふぞ一寸想像
まきこのわあす

たやには春の
梅子なぞ
知らせて下さ
い
此方へ
家からなる
而して
信
また
珍ら
い
もの
を
送
て
頂
き
而
し
て
禮
も
致
し
ま
せ
ん
で
申
譯
有
り
ま
す
ふ
の
く
思
ふ
ゆ
ゝ
た
ふ
ら
ず
大
禮
致
し
ま
す
た
悪
う
ら
ま
す

では仰一読吳々も仰ら自愛き之に
仰働きおさへ

別はこれと申しし書言々毒の有りたせ

が仰無喜のそ競かやん

姉妹達に宣教仰信入らさへ

読者

新三郎

宛仰一読様

鐵
軍形武苑
之平白川社之印

東京市
田川新太郎様
軍事郵便
檢閱済

前略

中便り有難く相見致しおりました

於夏うが活々様 あれ氣で仰る春一の由

仰同慶の到りと存ぞ 丹りまゝ、私もお蔭で元氣で

艦務に渾身の男力を盡し、丹りまゝ

光蔭矣の如く、か日月の過つは早いものであね

今年も後録す、なまゝ、あつて、いふ、いふ、

お前柄、皆様の、お心々、お忙か、以事、でせう

お心々、新仕、完の、完成、い、い、や、う、で、す、が、立派、に出、来、

あ、お、つ、た、事、で、せ、う、せ、し、い、ん、ん、ん、見、せ、う、下、さ、い

父も仰る、おの、事、と、存、ぞ、ま、ま、

まあ、元氣、養生、い、い、永、生、い、い、下、さ、い、其、う、う、には

私もあつかかりやあから

内山の兄も近中ちに歸還するやうですが

目出度うも申しませうか而し兄は獨身ではあし

妻子も有るものだから歸れば毎事か歸したとは

思つて居る合と早いのぞあね、松が入園するも向

もふと兄は召されて行つたがもう三年餘りも過

ぎてしまつたのぞあね

兄に比べれば私ふんぞがうあつうあつあ文さんや

あ母様さえ其のつもりが片々ともだされば生死ふんぞ

ふんとも思つて居りませぬあし海に召された命

だものだから他の人は武運長久を祈るあか云ふが

私は武運短久●ふる事と祈つて居りませぬ

最近師はすつかりよくありませう。だから此水から
また大いに頑張りませう。
仰る親は、仰一月稼向、冬、折、から
仰る事、す、に

仰
一月稼

仰
社、即、お

封

16
11
16
16
176

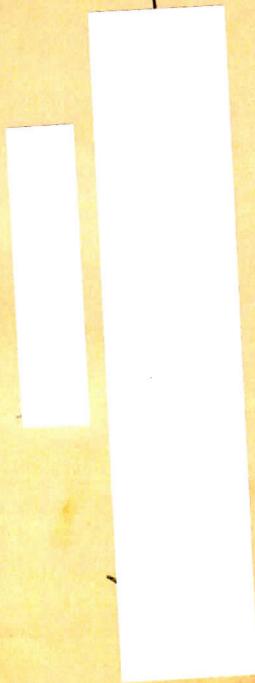
下
肥

横須賀海兵衛
守田川新太郎



守田川新太郎様

東京市



一筆啓上

一兩毎に暖氣が増して大變良し時を較とふりす
其の後者之様お爰り此座居まらんかお伺申
しませ
一私も相爰らう元氣で一意軍務に勵んで居ります
から何れも一と安心下さい

さて先日おたずねにふりすした小包今日陸奥より
届てもうございした大變結好する物とたごさん誠
に有難き心盡し有難くお爰りしました今頃の品物
のふい時にさぞ苦心してさがし求めたるのでしう先月
二十日また陸奥に居た時牛紙を頂きすたが其れから
半月以上もかりましたたがこれで二つ共無事一落手致し
ました事おてお禮申上ります

No. 1

イカリ

家では今頃は時節がら東京の盛盛りまた春物の
しつけでも敏系忙のりとお察しす
私もいつも忙しい軍務のかたは今日の仕事が終り寢床
に就いた時ふと家では今頃ふたとして居るかしの父は
元氣で居るか母は達者であらうか兄さんは相爰らす
忙しく働いて居るがあらうか子供達は大さくふつた
らうなああと一人家の様子も思ひ浮かべては皆んふの
幸福で居て呉れよううに祈り申す

No. 2

イカリ

さて私の事も皆んふは全じやうに心配致して居て下
さる事ぞしうが私の事は心配しなす下さい私も海軍
人です父の兄さんの弟であり皆んふの兄さんです
今度の海戦にも参加出来ず皆んふもさぞどかしと
田心で居らうござしうが私にもいつか其の時が来ることぞ
あちう今私にして居ることは皆んふにもお話して

喜こんどもらいたいがこれは軍極秘でたとえ親兄妹
にも話す事は出来ませんやがてお話しして喜こんども
頂く時もあることだろう。これに同封致す馬と真
は最近映した写真真です顔はずいぶん元氣な後
切つた處と兩腕に桜の花のあることを見ても具いた
い暇があつたら度々お便を下さい
では此様で元氣よう

兄上様

長崎造船所

弟より

長崎市館浦海軍監獄官事務所
有馬大佐事務所第十號室

年々川 杜三郎
イカリ

十月九日

宇田川秋三郎

封

東京市

宇田川新太郎様

日本郵便 第四

別 畧

船りく出せ音 録 ましむが
其の後以面脱けめ皆の様以爰に亦
登々以連係す以清光のるし市連葉
申しとげまを 不肖、私もお爰ら
至極元と未だ、於務りに精勵致し居り
ますから、以安心しさい
吾々海上有りては秋の様子も一向に知るる
も出来ず、人知れぬ想當木の葉も色
ずいなるやとありませう

農家を於ては、取入對ぞ念々、以敏系化
乃ちやぞせう、今年には作物の出来、何
りすか、夏季に、木候不順であつので
あまり豊作と云ふやうな、はりに、は、
のふいで、しう、今、東京では、冬、候は、順、頂
です、か、今、冬、々、碓泊、録、一、居、る、や、は、三、日
分、にも、大、暴、風、が、や、つ、て、来、て、風、速、四、十、米
と云ふ、い、ど、い、あ、ら、し、で、一、た
た、す、が、の、大、船、も、木、の、葉、の、わ、ら、う、で、一、た
た、り、あ、る、の、被、害、も、有、り、ま、す

さて松も今田浅野に能く身を以て
進取の思今に浴しまし
十月一日附と優赤ふ多成績と次で一等水兵
とありまし
ますては此日々様以自愛す一に

若千々

十月八日

北三郎

宇田川様

X

軍部
正門

辛酉年
正月三日

軍事郵便
檢閱濟



東京市

宇田川
新右衛門
様

